

インフォマティカ社

戦略的価値を創出するためには エンタープライズ規模での データインテグレーションが不可欠

データインテグレーションソフトウェア市場のリーディングカンパニーである Informatica Corporation (以下、インフォマティカ) は、2004年5月に、日本法人インフォマティカ・ジャパン(株)を設立し、日本市場での本格展開を開始した。現在、同社のソリューションは、世界各国で2,100社を超える企業に活用され、エンタープライズ・データインテグレーションに対するエンド・ツー・エンドのニーズに対応している。ここでは、2005年2月に来日された同社の社長兼CEOの Sohaib Abbasi (ソハイブ・アバシ) 氏に、市場動向と今後の事業展開について伺った。



Informatica Corporation
President & CEO
Sohaib Abbasi 氏

はじめに、インフォマティカの概要について、お話ししてください。

Sohaib Abbasi 氏 (以下、SA)

当社は、1993年に設立されて以来、データインテグレーションソフトウェア市場のパイオニアとして、ビジネスの効率化、顧客利益の向上、スムーズなサプライチェーンの運用、法規制への準拠に向けた積極的なシステム運用を図るさまざまな製品とソリューションを提供してきました。現在は、世界各国で2,100社を超える企業の方々当社製品を活用しています。また日本においては、自動車メーカーや家電メーカーのトップ3をはじめとした、約100社の企業の方々に活用されています。

データインテグレーションソフトウェア市場の動向、企業のニーズを、どのように捉えていますか。

SA 企業におけるデータインテグレーションは、10年ほど前から、財務、製造、マーケティングといった部門ごとの自動化が進められてきました。しかし、部門ごとに作業を進めてきたので、蓄積された情報(データ)がサイロのように独立してしまい、現在、この情報の細分化が、大きな課題になっています。一方、企業の経営陣は、蓄積された情報から戦略的価値を引き出そうとしています。そのため、データウェアハウスを構築して、蓄積された情報を基に、これからの傾向を分析し、新たなビジネスを展開しようとしています。しかし、このようなやり方

では、先進的なビジネスは期待できません。独立した情報を統合し、より広範囲なデータインテグレーション・プロジェクトを行わなければ、コスト効率の良い価値的なビジネスを創出できないと思います。

どのようなプロジェクトが必要になるのでしょうか。

SA データウェアハウジングとともに、「レガシーの移行」、「連結・統合」、「マスターデータ管理」、「データの同期化」などのプロジェクトが必要です。また、これまでは部門規模のデータインテグレーションが主流でしたが、これからは、エンタープライズ規模、つまり、企業レベルでのデータインテグレーション・プロジェクトを行わなければならま

せん。先進的な企業では、既にこの取組みを開始し、ICC（インテグレーション・コンピテンシー・センター）と呼ばれるものを設立しつつあります。これらの企業は、「データウェアハウジングから、より広範囲なデータインテグレーションへの移行」、そして、「部門ごとのプロジェクトから、企業レベルの大規模なプロジェクトへの移行」を図ることで、情報から戦略的価値を引き出しています。

このようなニーズに対して、インフォマティカでは、どのような事業を展開していますか。

SA 「ビジネスユーザー」、「IT管理」、「開発者」、この3つの観点から事業を展開しています。

ビジネスユーザーは、企業の中でどのようなことが起こっているの

か、全体的な観点からの情報を求めています。IT管理者は、コスト効率の良いスケールアップを求めています。そして開発者は、短期間での価値の創出を求めています。当社は、これらの要求条件を満たすソリューションを提供しています。

まずビジネスユーザーに対しては、全ての情報へのアクセスを提供しています。例えば日本では、さまざまな情報がメインフレームのデータベース内に入ったままの企業が多くありますが、これらの情報へのアクセスを提供していきます。当社は、全メインフレームソースからの情報をほぼリアルタイムに統合し、配布することで、IT管理者が高い精度と信頼性のある情報を提供する「変更データキャプチャ（CDC）」を開発しました。このCDCにより、大容量の情報をほぼリアルタイムで動かすことができます。また当社の製

品は、64-bitやLinuxなどの先進のハードウェアを全てサポートしていますので、積極的なシステム運用を行う上で、最適な環境を提供することができます。そして開発者がより短期間で結果を出せるよう、開発者同士のコラボレーションを図るコンフィギュレーション管理やバージョン管理などのサービスを提供し、チームレベルでの生産性の向上をサポートしています。

このような事業を展開されてきて、世界レベルでの評価を獲得されているとお聞きしましたが。

SA 世界各国の企業を対象に、毎年、ベストなデータインテグレーション・プロジェクトを持つ企業を表彰する「The Data WareHouse Institute（TDWI）」では、過去8年間、当社の製品を活用している企業が受賞しています。2003年には、TDWI 2003 Best Practicesとして日本のトヨタ様が受賞されました。

今後も、エンタープライズ規模のデータインテグレーションに向けたエンド・ツー・エンドのニーズを実現する製品を提供していきます。

開発者のスキルアップを支援する

「インフォマティカ・ディベロッパープログラム」を4月から開始

インフォマティカ・ジャパン(株)は、パートナー企業の開発者を対象とした「インフォマティカ・ディベロッパープログラム」を4月1日から開始した。本プログラムは、同社のETLツール「PowerCenter」の開発者支援を目的としたもので、参加者に対してインフォマティカ製品の開発者としての認定を行い、ホームページで参加企業の紹介を行うことで、開発案件の獲得に協力。また、製品に関する情報を提供し、開発者のスキルアップを支援するものである。主なプログラム内容は次のとおり。

参加企業をホームページに掲載し、問い合わせ開発案件を紹介

評価版製品の無償提供

無償トレーニングやセミナーへの参加

各種製品情報の入手

参加企業の交流会のご案内

インフォマティカ・ジャパン株式会社

〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3-12

紀尾井町ビル8階

TEL：03-3556-3711

FAX：03-3556-3766

URL：http://www.informatica.jp/